

東京電力と中国との交流について

1 . 定期交流会議の開催

当社では、互惠平等・友好促進の立場で、日中両国の電気事業の交流を目的として、経営トップレベル交流会議を 1986 年からほぼ毎年開催している。

定期交流会議は、当初は水利電力部が相手であったが、その後、能源部、電力工業部、国家電力公司与中国側の組織変更によって相手が変わり、2002 年の組織改革後は国家電網公司与継続実施している。

この定期交流会議は、当初から東京と北京で交互に開催し、2004 年度までに合計 18 回開催している。訪問団は 6 ~ 8 名で構成されており、会議のテーマは、発電、送配電に関することを中心に、その時々状況を踏まえながら、経営財務、電気料金制度、環境保全、電力市場自由化など、協議のうえ選定している。

2005 年度については、6 月 1・2 日の両日、UHV 送変電技術をテーマに、東京にて定期交流会議（第 19 回）を開催。

2 . 研修を目的とした訪問団の受け入れ

これまで、当社は研修を目的とした多くの訪問団を中国から受け入れており、特に、1992 年から 2001 年の 10 年間では、各省電力会社の社長や支店長、発電所長等、計約 300 人を対象とした研修を実施してきた。

上記の経営幹部を対象とした研修とは別に、近年では、配電設備および配電自動化に関する実務者を中心としたミッションも多く受け入れている。また、環境問題の観点から、ACC (Advanced Combined Cycle : 改良型コンバインドサイクル) 火力発電所に関する訪問団や、石炭火力発電の効率向上をテーマとした訪問団も受け入れている。

その他にも、中国側の要請に合わせた形で様々な訪問団の受け入れを毎年多数実施している。

以 上